

令和 2 年 6 月 20 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K01620

研究課題名(和文) 体育授業における対話能力向上のための教育プログラムの構築：身体知の現象学と社会学

研究課題名(英文) Construction of Educational Program for Improving Dialogue Ability in Physical Education Class: Phenomenology and Sociology of Body Knowledge

研究代表者

木庭 康樹(上泉康樹)(Kiniwa (Uwaizumi), Kohki)

広島大学・総合科学研究科・准教授

研究者番号：60375467

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：主な研究業績としては、国際学会での公表を5回実施し[Uwaizumi (omit): Adaptation of Social Emotions for Introducing Tactical Periodization into Japanese Soccer. ICDPECY-20, 2020, London, etc.]、国内外の学会誌にも数編の原著論文の掲載を行なった(上泉ほか「サッカーのゲームの分析のための原理論構築に向けたスポーツ現象学に関する研究」身体運動文化研究, 第25巻, 1-19頁, 2020など)。また期間内に国内研究会を3度開催し、著書出版についても具体的な立案を行なった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、身体教育学やスポーツ科学の観点から、従来の「現象学的身体論」の理論的拡張を試みた。また「インクルーシブスポーツ」の<身体知>の解明を通して言語論と行為論の架橋を行ない、「インクルーシブスポーツ」の観点から、健常者スポーツの根源的な性質を探ることができた。その結果、本研究が、<身体知>の形成を理念とする体育授業を通して、SNS等の文字言語や映像文化に偏重した若者のコミュニケーション能力を改善させ、年齢や障がいの有無を問わず、異なる人を受け入れかつその人たちの持つ力を組織に貢献できるようにする「ダイバーシティ&インクルージョン」の理念の実現の一助となることが示された。

研究成果の概要(英文)：As a major research achievement, the research representatives presented several international conferences [Uwaizumi (omit): Adaptation of Social Emotions for Introducing Tactical Periodization into Japanese Soccer. ICDPECY-20, 2020, London, etc.] We published several original papers in academic journals (Kamiizumi et al. "Study on sports phenomenology toward the construction of original theory for analysis of soccer games", Physical movement culture research, Volume 25, 1- 19, 2020). We also held three domestic study groups within the period and made concrete plans for the publication of books.

研究分野：スポーツ哲学

キーワード：身体知 暗黙知 現象学 正統的周辺学習 対話能力 ゴール型スポーツ 体育授業 インクルーシブスポーツ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1. 研究開始当初の背景

「インクルーシブスポーツ」の特徴は、健常者のスポーツのルールを高齢者や障がい者でも参加できるように変更し、両者が等しくプレーできる競技環境を保証している点である。しかし反対に、健常者は、普段とは異なる不自由な環境に置かれることで、新たな身体感覚が研ぎ澄まされ、特殊なコミュニケーション能力を要求されるといった点も見逃すことはできない。たとえば、ブラインドサッカーにおいては、健常者であっても、日常生活の中で約8割の情報を受け取っているとされる視覚をアイマスクで閉ざすことで、障がい者に近い感覚を味わい、情報認知やコミュニケーションについて自らの考えを深めることが可能である。本研究は、こうした障がいの有無に関係なく参加できる「インクルーシブスポーツ」(とりわけ、対戦型集団球技スポーツ)の特性を、健常者スポーツの本質理解や指導実践に役立てることで、体育授業における教師の言語教示や生徒のコミュニケーションスキルの質的向上のための教育プログラムの構築を目指すものであった。

2. 研究の目的

本研究は、障がいの有無に関係なく参加できる「インクルーシブスポーツ」の特性を、健常者スポーツの本質理解や指導実践に役立てることで、体育授業における教師や生徒のコミュニケーションスキル向上のための教育プログラムの構築を目指すものであった。とくに「インクルーシブスポーツ」の<身体知>(言葉では表せない身体の作動・暗黙知)は、従来の「現象学的身体論」を理論的に拡張させ、これを新たに教育現場にも実践的に適用させる可能性を有している。また、この教育プログラムの実践は、健常者の障がい理解を深めるだけでなく、スポーツを通して様々な人々の社会参加を可能にする「ダイバーシティ&インクルージョン」の理念の実現にもつながっていくと考えられる。

3. 研究の方法

本研究では、身体教育学やスポーツ科学の観点から、従来の「現象学的身体論」の理論的拡張を試みた。また「インクルーシブスポーツ」の<身体知>の解明を通して、言語論と行為論の架橋を行ない、「インクルーシブスポーツ」の観点から、主として「フットボール」における認知行動に独自の性質を探ることとした。さらに、本研究は、上の理論的基盤に基づきながら、<身体知>の形成を理念とする「サッカー」や「ブラインドサッカー」の体育授業を通して、SNS等の文字言語や映像文化に偏重した若者のコミュニケーション能力を改善させ、年齢や障がいの有無を問わず、異なる人を受け入れかつその人たちの持つ力を組織に貢献できるようにする「ダイバーシティ&インクルージョン」の理念の実現の一助となるような、教授方法論的の模索も同時に行った。

4. 研究成果

本研究では、4年間を通じて、現象学や知識生態学、戦術的ピリオダイゼーション理論などの理論的研究、および、スペイン(バルセロナ)やポルトガル(リスボン・ポルト)、イングランド(ロンドン)、フランス(リール)におけるトップレベルのサッカーやブラインドサッカーの現地調査・インタビュー調査・映像分析などの実証的研究により、「手が使えない」(ある意味

で障がい者)スポーツとしてのサッカーと「眼が見えない」ブラインドサッカーに独自の「スポーツ的共通感覚」が存在し、足で行うスポーツに独特の<触知>が形成されていることを明らかにした。これらの概念内容については、今後さらに精緻な分析が必要であり、実際の体育授業への適用有効性データのさらなる集積が求められる。なお、主な研究業績として、研究代表者らは国際学会における研究成果の公表を5回実施したほか〔Uwaizumi (omit) : Adaptation of Social Emotions for Introducing Tactical Periodization into Japanese Soccer.ICDPECY-20, 2020, London,etc〕, 著書1冊を出版し〔木庭康樹(分担執筆)『左と右・対称性のサイエンス』丸善出版, 2017年〕, 国内外の学会誌にも10編以上の原著論文の掲載を行なった(上泉ほか「サッカーのゲームの分析のための原理論構築に向けたスポーツ現象学に関する研究」身体運動文化研究, 第25巻, 1-19頁, 2020など)。また期間内に国内研究会を3度開催し、本研究の全成果をまとめた著書の出版についても具体的な立案を行なった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 田井健太郎	4. 巻 1
2. 論文標題 スポーツ専攻学生のためのアダプテッド・スポーツ教育の充実をめざして	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 長崎国際大学教育基盤センター紀要	6. 最初と最後の頁 81-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田井健太郎	4. 巻 1
2. 論文標題 教員養成課程における保健体育模擬授業に関する研究-授業場面と形成的授業評価に着目して-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 長崎国際大学教育基盤センター紀要	6. 最初と最後の頁 29-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 佐々木 究
2. 発表標題 学校体育で育てる身体を考える-学校教育の原則と体育の役割-
3. 学会等名 体育・スポーツ哲学会第39回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kohki, Kiniwa., Shuhei, Kitagawa.
2. 発表標題 A Phenomenological Study of Sports for the Analysis of Soccer Game: On Embodiment of the Goal Type Ball Games of Team Sports.
3. 学会等名 2nd Asia-Pacific Conference on Performance Analysis of Sport. (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shuhei, Kitagawa., Shingo Takane., Kohki, Kiniwa.
2. 発表標題 A Study on Theory of Body in Maurice Merleau - Ponty ' s Phenomenology - Focusing on the analysis of a person with disability.
3. 学会等名 WEI International Academic Conference 2017, Rome. (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 木庭康樹	4. 発行年 2017年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 33
3. 書名 左と右・対称性のサイエンス	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田井 健太郎 (Tai Kentaroh) (00454075)	長崎国際大学・人間社会学部・講師 (37303)	
研究分担者	佐々木 究 (Sasaki Kyu) (30577078)	山形大学・地域教育文化学部・准教授 (11501)	